

令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

研究・研修専門部会

日時：令和6年12月3日（火）

午後4時15分から

場所：宇治市生涯学習センター

1階 第2ホール

<次第>

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 研究・研修専門部会について
- 4 検討
来年度の研究・研修について
- 5 その他連絡事項
- 6 閉会

<資料>

	ページ
① 研究・研修専門部会 部会員名簿	… 1
② 研究・研修専門部会について	… 2
③ 検討（来年度の研究・研修について）	… 4
○「今後希望する研究・研修内容」の意見集約 資料1	… 6
○乳幼児教育・保育に関する研究事業の形式の例とイメージなど 資料2	… 7
○令和5・6年度 研修一覧、参加状況 資料3	… 9
○乳幼児期の教育・保育の基本理念（案） 資料4	… 12
○令和6年度第3回 発達・子育て支援専門部会 「（3）次年度の研究・研修について」 主な意見 資料5	… 13

令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会
研究・研修専門部会 部会員名簿

区分		所属等	氏名	備考
協議会 委員	学識経験者	京都教育大学教育学部 准教授	佐川 早季子	推進協議会 会長
	民間保育施設	宇治福祉園 理事長	杉本 一久	発達・子育て 支援 部会長
	私立幼稚園	こぞくら幼稚園 園長	松井 明恵	保幼小連携 部会長
	小学校	南部小学校 校長	杉本 俊恵	保幼小連携 部会員
幼稚園・ 保育施設 の従事者	民間保育施設	ひいらぎこども園 園長	中田 純子	保幼小連携 部会員
	私立幼稚園	みのり幼稚園 主任	斉藤 あゆみ	発達・子育て 支援 部会員
	公立保育所	宇治保育所 所長補佐	西口 真弓	発達・子育て 支援 部会員
	公立幼稚園	東宇治幼稚園 教務	宮本 弘子	保幼小連携 部会員

(合計8名)

研究・研修専門部会について

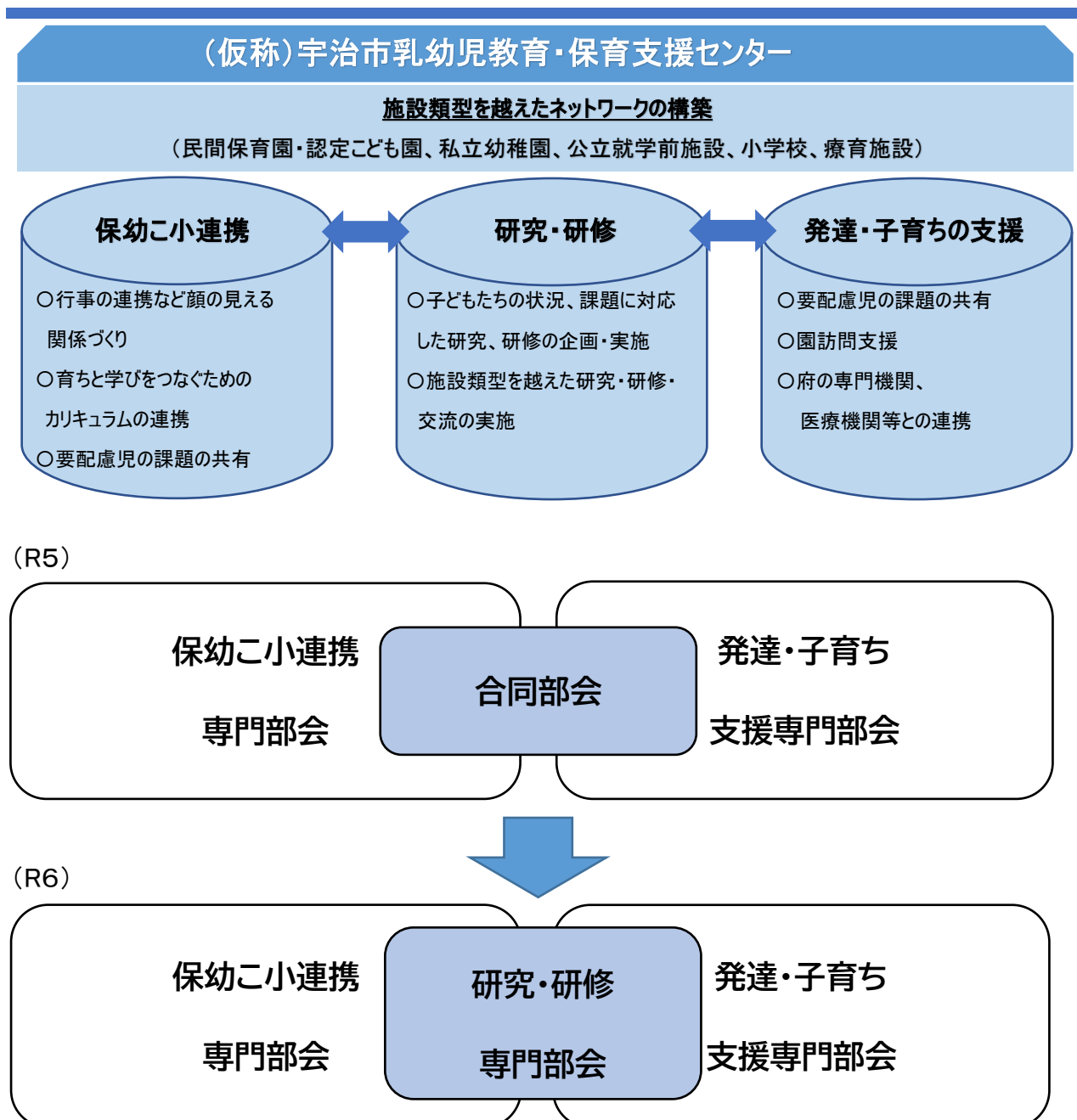
1 設置に至る背景・経過

(1) 令和5年度

令和6年度の研修計画の検討にあたり、施設類型を越えた子どもに関わる関係者で今後の乳幼児教育・保育に関わる人材育成のあり方を検討するため、推進協議会会長及び両専門部会から選出された部会員で構成する合同部会を開催

(2) 令和6年度～

人材育成のあり方等を継続的に検討する機関として、新たに「研究・研修専門部会」を設置し、人材育成に有効な手法や研究・研修を進めるに相応しいテーマなどについて検討を実施するために開催。部会員は、引き続き推進協議会会長及び両専門部会から選出された部会員で構成



2 専門部会の運営について

(1) 次の理由により非公開とします。

ア 事例研究などで、特定の個人を匿名扱いにしたとしてもなお、発言者により個人が特定されるおそれがあるため

イ 部会員の方に積極的にご意見や提案をいただくという専門部会の趣旨を踏まえ、自由かつ率直な意見交換を確保するため

<参考>

○宇治市審議会等の会議の公開に関する指針（抜粋）

第3 審議会等の公開基準

審議会等は法令、条例等の規定により会議が非公開とされている場合を除き、公開するものとする。ただし、次のいずれかに該当する場合は、会議の全部又は一部を公開しないことができる。

- (1) 宇治市情報公開条例第6条各号の規定に該当する情報に関し、審議等をする場合
- (2) 会議を公開することにより、公正、円滑な審議等が著しく阻害され、会議の目的が達成されないと認められる場合

○宇治市情報公開条例（抜粋）

・第6条第2号

「特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるもの」

・第6条第4号

「本市等の内部又はその相互間における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、公正な意思形成に著しい支障が生ずるおそれのあるもの」

(2) 検討した事項については、取りまとめの上、協議会において報告することとなるため、最終的には公開となります。

(3) 開催の様子を写真撮影し、ホームページ等で掲載することがあります。

(4) 会議録を作成するため会議内容を録音するとともに、会議録は協議会、専門部会及び事務局で共有します。

4 検討（来年度の研究・研修について）

次の＜検討をお願いしたい事項＞を中心に、それぞれの施設の運営状況や課題に感じていることなどを踏まえ検討していただくとともに、園内で実施している研究・研修内容についても教えていただきますようお願いいたします。

＜検討をお願いしたい事項＞

【研究】

（１）テーマについて

- ・どのテーマで研究を行うのがよいか など

（２）形式について

- ・（１）で選んだテーマにはどの形式で研究を行うのがよいか など

（３）進め方について

- ・個人チーム型・施設連携型の場合、何回程度集まって研究を行うのがよいか
- ・個人チーム型の場合、どの程度の人数を集めて研究を行うのがよいか
- ・施設連携型の場合、どの程度の施設数を集めて研究を行うのがよいか
- ・どのような予算措置があれば、効率的・効果的に研究を進めることができるか
- ・研究テーマ、研究形式に応じ、どの程度の成果を求めるか など

（４）その他

【研修】

（１）テーマについて

- ・どのテーマで研修を行うのがよいか など

（２）講師について

- ・大学教授等、府幼児教育アドバイザー、市内施設の施設長 など

（３）形式・開催時期について

- ・単発形式、テーマの固定・シリーズ化
- ・どの時期に研修があると参加しやすいか など

（４）その他

分野	No.	月日 (予定)	形式	テーマ・内容	対象者の目安				講師
					初任	中堅	充実	管理	
教育・保育の質向上		5月頃	講演・ グループワーク	「非認知能力について」	○	○	○	○	佐川 早季子 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 准教授
		12月頃	公開保育①	「保育を観て学ぼう」(公立就学前施設)	○	○	○	○	府幼児教育アドバイザー ザニ
		1月頃	公開保育②	「保育を観て学ぼう」 (民間保育所(園)・認定こども園、私立幼稚園)	○	○	○	○	民間・私立園園長など
現在記載の研修内容は、あくまで令和6年度までの実績や推進協議会等でのご意見などをもとに、事務局にて便宜的に欄を埋めているものです。 部会員の皆様には、次年度の研修について、次ページ以降の資料を参考に、研修の分野、開催時期、形式、テーマ、講師など、どのような内容で実施するのが相応しいか、具体的かつ忌憚のないご意見をお願いいたします。									
保幼小連携									
		11月頃	公開授業	「授業を観て学ぼう」	○	○	○	○	京都府山城教育局指導 主事
発達・子育て支援		6月頃	講演・ グループワーク	「移行支援シートの記入方法について学ぶ」	○	○	○	○	ひかしうじ幼稚園教諭
		7月頃	講演・ グループワーク	「宇治市のフォローシステムについて学ぶ」	○	○	○	○	保健推進課発達相談員

○研究希望テーマ

区分	テーマ	人数
教育・保育の 質向上	(年齢に合わせた)表現(製作・絵画・身体表現)	17
	各施設の保育・授業参観	11
	主体的な姿・主体性を持てる子どもになるには・主体的な遊びについて	8
	素材・教材研究	6
	環境構成	4
	こどもへの関わり方、遊びからの学び、めざす子ども像	3
	保育内容、幼児・児童の大切にしたい力・学び	2
	楽しいクラス運営の仕方やアイディア、園の安全対策、製作あそび、運動あそび、領域に焦点を充てた研究、非認知能力	1
保幼小連携	保幼小をつなげる・子どもの期待感を高めるための取組・体験	22
	スタートカリキュラム・アプローチカリキュラム	10
	宇治市の教育・小学校へ向けて、どんな力が必要か	3
	10の姿を小学校でどう伸ばすか、要録について	2
発達・ 子育て支援	保護者対応・支援について	9
	子どもの育ちや対応(イヤイヤ期や反抗期なども含む)	8
	支援が必要な子どもへの支援の方法・集団生活について	5
	切れ目のない支援のための連携・子どもの自己肯定感の高め方	3
	昔の子どもと現在の子どもとの特性の違い(苦手な事・得意な事)	2
	支援を要する子どもも含めた学級づくり	1

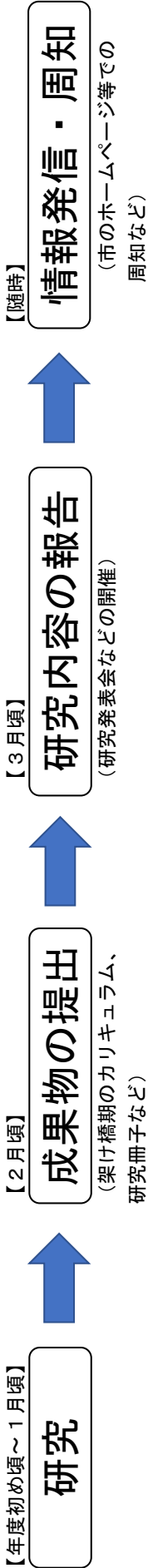
○研修希望テーマ

区分	テーマ	人数
教育・保育の 質向上	子どもへの言葉かけ・アプローチ・関わり方	9
	幼児、児童の主体的な学び・遊びについて	7
	環境構成、子どもが興味・意欲をもつ姿	4
	絵本について	3
	教育と保育の違いについて、幼児期の子どもについて	2
	アタッチメント(愛着の醸成)、子どもの育ちと小学校の教育課程、教材を生かす環境づくり、食育、運動機能、乳児保育について	1
保幼小連携	保幼小のギャップをなくすための取組等・連携	30
	10の姿をどのように引き継いでいるか	1
発達・ 子育て支援	保護者支援・保護者対応(つなげ方・基準等)	12
	支援を要する子どもへの関わり方	9
	インクルーシブ教育・園での配慮の仕方・学級運営	4
	発達支援の実践的な内容(ロールプレイを通した学び合い)	3
	療育施設について知りたい・行きたい、ケース会議・ケース検討	3
	子どもの発達について、グレーゾーンの子どものことについて	2
	発達相談等の専門的なシステムを理解できる研修	1
研修方式など	実技研修(造形、リトミック、表現遊び、絵本読み聞かせなど)	22
	グループワーク(エピソードの共有含む)	18
	公開保育・参観	12
	他施設との交流、共同製作	5
	療育施設について知りたい・行きたい、事例検討	3

乳幼児教育・保育に関する研究事業の形式の例とイメージ

実施自治体	京都市：子どもの心の育ち、保幼小連携・接続など 大阪市：保育実践、特別支援教育・保育など	個人チーム型	伊丹市：保育環境、遊び込む子どもの育成など 堺市：人と関わる力、学びに向かう力など	宇治市：架け橋期のカリキュラム作成
形式			施設単独型	施設連携型
イメージ	○施設から推薦された個人がチームを組んで研究 保育所 幼稚園 認可園 小学校 個人 個人 個人 個人 ↓ ↓ ↓ ↓ 年数回の研究会を開催して研究を行う センター	○施設単独でスキルアップを望む分野を研究 就学前施設 ↓ 単独の施設を指定し、連携して研究を行う センター	○施設連携して連携強化したい分野を研究 就学前施設 小学校 ↑ ↓ 連携する複数施設を指定し、連携して研究を行う センター	
全体への還元・普及及方法例	○成果物の作成 (架け橋期のカリキュラム、移行支援シート作成の手引き、連携の手引きなど) ○協働研修会での研究発表	○成果物の作成(研究冊子など) ○協働研修会での公開保育、研究発表など		○成果物の作成(架け橋期のカリキュラム、連携の手引きなど) ○協働研修会での保育・授業の公開、研究発表
具体例	乳幼児教育・保育推進協議会（専門部会） 教育研究員制度	研究指定校・全日本私立幼稚園研究機構（ECEQ）など		府：架け橋期のカリキュラムコンサルテーション事業

○各形式共通の流れ（案）



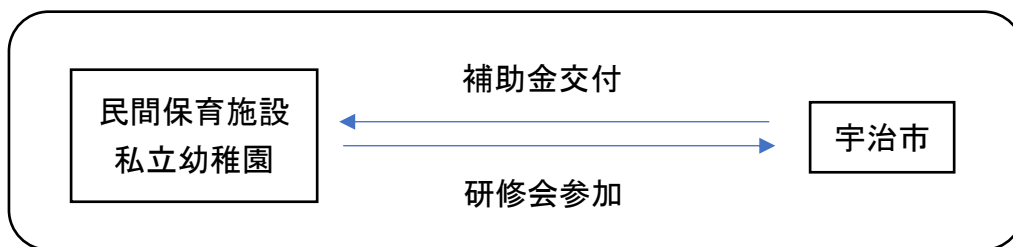
○予算措置（案）

＜交付目的＞

代替職員を雇用するために新たに要する経費として交付

①個人チーム型の場合

研究会に参加する先生の属する施設に対し、1回あたり〇〇円の補助金を交付

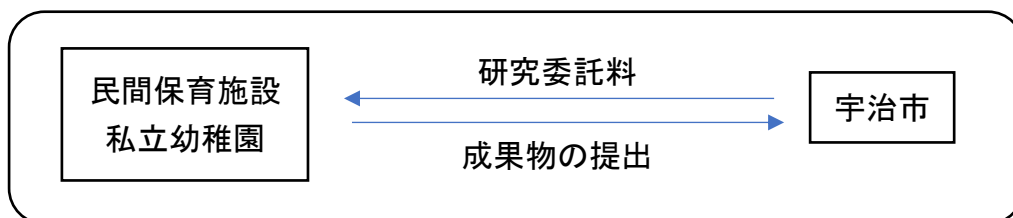


②施設単独型の場合

1 研究を行う施設に対し、研究委託料として〇〇円を支出

＜使用目的の例＞

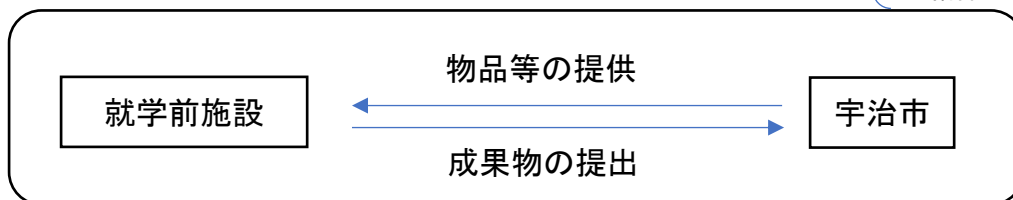
講師謝礼、旅費、消耗品費、印刷製本費、会場使用料など



2 研究を行う施設に対し、必要に応じて物品等を提供

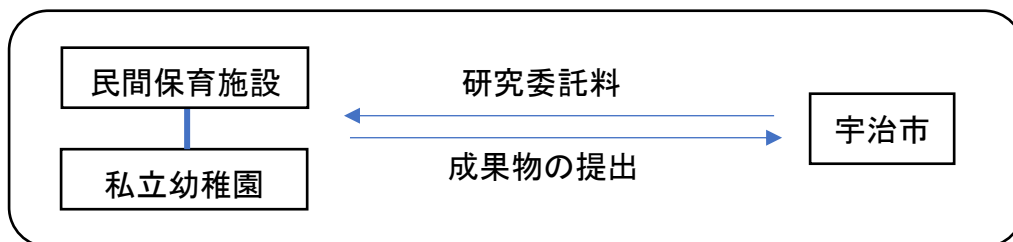
＜提供の例＞

消耗品、切手、備品・図書の貸出など

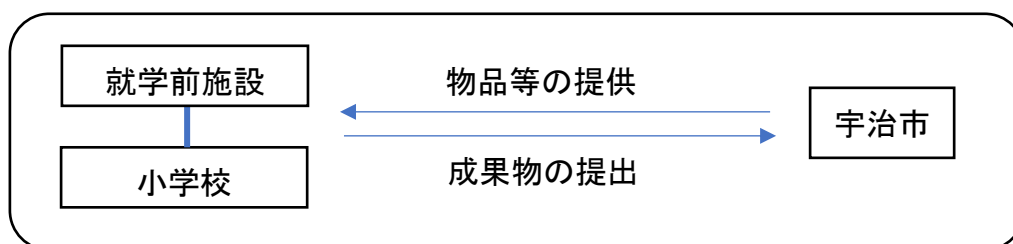


③施設連携型の場合

1 研究を行う施設に対し、研究委託料として〇〇円を支出



2 研究を行う施設に対し、必要に応じて物品等を提供



令和5年度乳幼児教育・保育推進事業 研修一覧

※グループワーク実施の場合：○

No.	区分	テーマ・研修内容	GW ※	講師	月日
1	☆新規乳幼児教育・保育協働 研修会(センター研修)	「乳幼児期にはぐくみたい力(非認知能力の育成)」 「自立心やその芽生えに関するエピソードについて学び合う」 講義や意見交流を通して、乳幼児期にはぐくみたい力を共有する 【エピソード研修・講演】	○	京都教育大学幼児教育科 准教授 佐川 早季子 氏	7/25
2		「保護者対応～どう寄り添いますか～」 講義やロールプレイを通して、保護者に対する支援の仕方や相談の進め方について学ぶ 【講義・ワークショップ】	○	宇治福祉園 理事 海老原 弘行 氏	9/7
3		「保育者や教員に必要な力について学び合う」 ～新聞紙ワークで頭と心をほぐそう!!～ 講義やワークショップ等を通して、保育者や教員に必要な力について学び合う。 【講義・ワークショップ】	○	大谷大学附属大谷幼稚園 園長 竹田 ひとみ 氏	9/26
4		「公立保育所の公開保育から学び合う」 公開保育とその後の意見交流等を通して、子どもの主体性をはぐくむ環境構成や保育者の関わり方について学ぶ 【公開保育】	○	京都府幼児教育センター 幼児教育アドバイザー 大橋 美智子 氏	12/15
5	保幼小合同研修講座 (教育部) ※公立幼・小 全園・校参加	「自ら学ぶ楽しさをつなぐ～小学校教員が幼児教育を学んで考えたこと～」 令和4年度京都府現職教員長期研究生の実践や意見交流等を通して、育ちと学びをつなぐ必要性について学ぶ 【実践発表】	○	木幡小学校教諭 中尾 佳那 先生 幼児教育アドバイザー 狩野 理恵子 氏	7/4
6		「幼小連携・接続実践報告から学び合う」 宇治市教育研究員(幼小接続研究部会)の実践報告や施設類型を越えた意見交流等を通して、育ちと学びをつなぐ必要性や日々の教育・保育実践に活かす具体的な視点を学び合う 【実践発表】	○	京都府幼児教育センター 幼児教育スーパーバイザー 古賀 松香 氏	2/22
7	早期療育ネットワーク会議 研修会・講演会 (福祉こども部)	「発達面で支援が必要な子どもとその保護者に対する就学前のフォローシステム」 宇治市のフォローシステムについて学ぶ 【講演・グループ協議】	○	保健推進課発達相談員 学校教育課指導主事	8/10
8					10/23
9					11/7
10		「幼児期に発達障害が疑われる子どもたちと保護者への支援」 発達障害の理解、発達障害への対応や保護者へのフォローについて学ぶ【講演】		京都府立こども発達支援センター 小児科医師 青山 三智子 氏	12/7
11		「事例から学び合う」 療育施設等の先生の困りごと、疑問点を通して、解決策を議論することを目的とする 【事例検討】	○	京都府立大学公共政策学部教授 服部 敬子 氏	2/27

※合計 11 研修

令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修 年間予定

令和6年11月29日現在

対象者の目安となる時期等 初任期(1～6年)・中堅期(7～15年)・充実期(16年以降～)・管理職(あくまで目安で当該時期以外の方も受講は可能です)

分野:①教育・保育の質向上 ②保幼こ小連携 ③発達・子育て支援

分野	No.	月日 (予定)	形式	テーマ・内容	対象者の目安			講師
					初任	中堅	充実	
①	1	5/28(火) 終了	グループ ワーク・講演	「非認知能力の育ちにつながるアタッチメント(愛着)」 「子どもから学んだこと」をキーワードにエピソードを語り合うとともに、かけがえのない存在である子どもたちのアタッチメント(愛着)について学び合う。	○	◎	○	佐川 早季子 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 准教授
③	2	6/6(木) 終了	グループ ワーク	「保護者の気持ちに寄り添う相談」 子どもの困っている姿に気づき、支え、つなぐために、多様な保護者と接している発達相談員を囲んで互いの悩み等を語り合い、1学期の懇談等に活かせるように学び合う。	○	◎	◎	保健推進課発達相談員
③	3	7/16(火) 終了	講演・ グループワーク	「宇治市のフォローステムについて学ぶ」 発達面で支援が必要な子どもとその保護者に対する就学前のフォローステムについて学び合う。	◎	○	○	保健推進課発達相談員
①	4	7/22(月) 終了	実技研修	「創造的な表現活動」 保育者・教師自らが、五感や気持ち、素材、道具を大切にしたい創造的な表現活動を体験する。	◎	◎	○	津田 純佳 府幼児教育アドバイザー
②	5	7/30(火) 終了	演習	「保育要録・指導要録の書き方と活用の仕方」 具体的な記入例や活用例を通して、伝わる・活かせる要録を目指して学び合う。	◎	◎	◎	天花寺 裕 学校教育課 副課長(指導主事)
③	6	8/23(金) 終了	講演	「5歳ごろの子どもの発達と集団づくり」 5歳児ごろの発達の特徴や集団の中で育つ子どもの姿について学ぶ。	◎	◎	◎	服部 敬子 京都府立大学 教授
①	7	9/2(月) 終了	実技研修	「身体表現遊び」 明日すぐに子どもと遊んでみたいくなる、身体表現遊びを体験する。	◎	◎	○	本山 益子 府幼児教育アドバイザー 京都文教大学 こども教育学部 教授
①	8	10/24(木) 終了	講演	「絵本ではぐくむ子どもの感性」 子どもの言語力、感性、文脈理解等を発達させ、豊かな人格形成をもたらす絵本について学び合い、保育実践に活かす。	◎	◎	◎	西村 恵里香 東宇治図書館 主任(図書館司書・絵本専門士)
②	9	11/12(火) 終了	公開授業 (南都小学校)	「授業を観て学ぼう」 公開授業とその後の協議等を通して、学び合う。	○	◎	◎	小西 菜穂子 京都府山城教育局 指導主事
①	10	11/27(水) 終了	公開保育 (東宇治幼稚園)	「保育を観て学ぼう」【京都教育大学協働研修と合同】 公開保育とその後の協議等を通して、学び合う。	◎	◎	○	古賀 松香 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 教授
①	11	12/19 (木)	公開保育 (明星っ子こども園)	「保育を観て学ぼう」 公開保育とその後の協議等を通して、学び合う。	◎	◎	○	高倉 明子 明星っ子こども園 副園長
①	12	1/21 (火)	公開保育 (こざくら幼稚園)	「保育を観て学ぼう」【ECEQ [®] と合同】 公開保育とその後の協議等を通して、学び合う。	◎	◎	○	未定
②	13	2/21 (金)	グループ ワーク等	「幼児教育と小学校教育の接続期カリキュラム」 実践報告・講演・グループ協議を通して、教育・保育の充実につながるための活用できる接続期カリキュラムについて学び合う。	-	◎	◎	古賀 松香 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 教授
③	14	3月頃 (予定)	③発達	「(仮) 発達・子育て支援について」				【検討中】

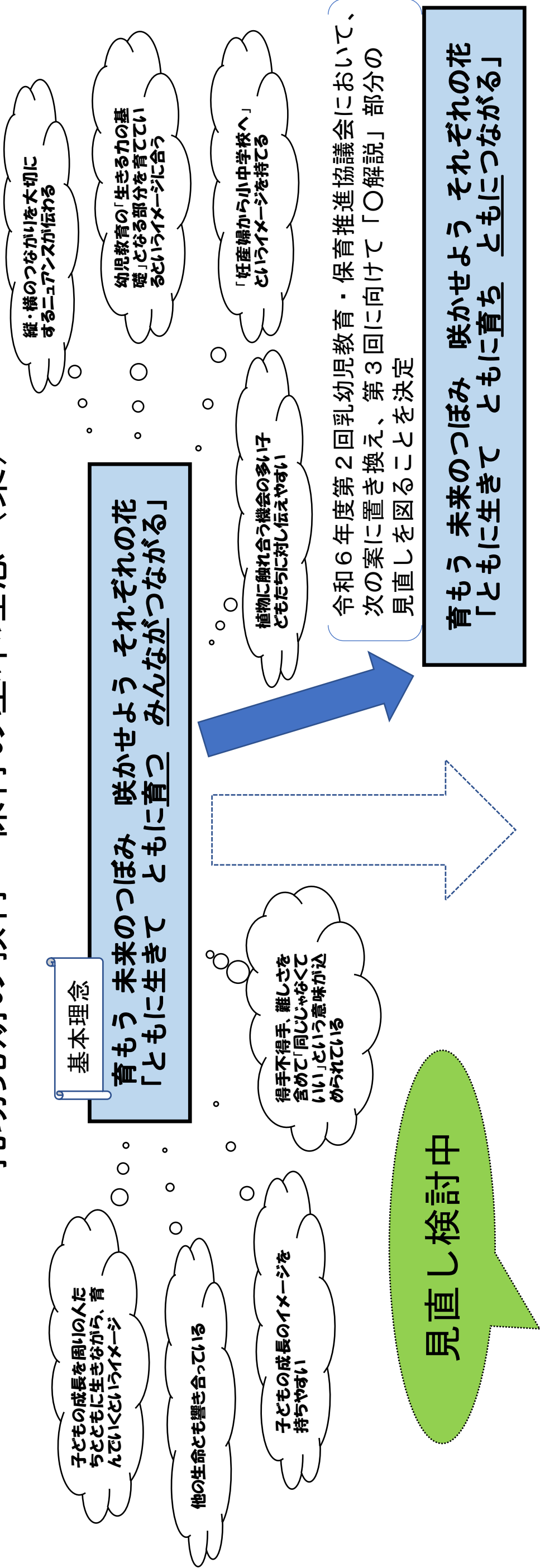
OR6 研修参加状況について（令和6年11月12日現在）

No	月日	テーマ・研修内容	講師	参加人数	保・こ		幼		小	療育他
					公	民	公	私		
1	5/28	●教育・保育の質向上 非認知能力の育ちにつながるアタッチメント(愛着)	佐川 早季子 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 准教授	34	4	13	5	2	6	4
2	6/6	◇発達・子育て支援 保護者の気持ちに寄り添う相談	保健推進課 発達相談員	26	2	11	4	3	4	2
3	7/16	◇発達・子育て支援 宇治市のフォローシステムについて	保健推進課 発達相談員	24	5	11	2	2	1	3
4	7/22	●教育・保育の質向上 【実技研修】 創造的な表現活動	津田 純佳 府幼児教育アドバイザー	21	3	10	3	1	3	1
5	7/30	○保幼こ小連携 保育要録・指導要録の書き方と活用の仕方	天花寺 裕 学校教育課 副課長 (指導主事)	61	7	21	5	7	21	0
6	8/23	◇発達・子育て支援 5歳ごろの子どもの発達と集団づくり	服部 敬子 京都府立大学 教授	31	4	9	5	4	1	8
7	9/2	●教育・保育の質向上 【実技研修】 身体表現遊び	本山 益子 府幼児教育アドバイザー 京都文教大学 こども教育学部 教授	14	2	6	2	1	1	2
8	10/24	●教育・保育の質向上 絵本ではくむ子どもの感性	西村 恵里香 東宇治図書館 主任 (図書館司書・絵本専門士)	16	2	8	3	0	3	0
9	11/12	○保幼こ小連携 【公開授業】 「授業を見て学ぼう」(南部小学校)	小西 菜穂子 京都府山城教育局 指導主事	33	1	9	4	2	17	0
合計				260	30	98	33	22	57	20

(参考) R5 研修参加状況（令和6年同時期まで）

No	月日	テーマ・研修内容	講師	参加人数	保・こ		幼		小	療育他
					公	民	公	私		
1	7/4	○保幼こ小連携 幼児教育を学んだ小学校教諭の実践発表	中尾 佳那 小学校教諭 狩野 理恵子 京都府幼児教育アドバイザー	75	7	25	9	7	20	7
2	7/25	●教育・保育の質向上 非認知能力の育成・【事例研究】	佐川 早季子 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 准教授	30	2	7	10	3	5	3
3	8/10	◇発達・子育て支援 宇治市のフォローシステムについて	保健推進課 発達相談員 学校教育課 指導主事	28	7	10	0	7	3	1
4	9/7	◇発達・子育て支援 保護者対応	海老原 弘行 宇治福祉園 理事	44	0	9	10	5	14	6
5	9/26	●教育・保育の質向上 【実技研修】 新聞紙ワーク	竹田 ひとみ 大谷大学附属大谷幼稚園長	21	1	2	5	3	7	3
6	10/23	◇発達・子育て支援 宇治市のフォローシステムについて	保健推進課 発達相談員 学校教育課 指導主事	14	4	2	1	1	3	3
7	11/7	◇発達・子育て支援 宇治市のフォローシステムについて	保健推進課 発達相談員 学校教育課 指導主事	23	7	7	0	2	3	4
合計				235	28	62	35	28	55	27

乳幼児期の教育・保育の基本理念（案）



〇解説

乳幼児期は、子どもたちが生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。全ての子どもたちが将来に夢と希望を持って、健やかに育ち、輝けるよう、以下のとおり乳幼児期の教育・保育のより一層の充実を図ります。

基本理念	「ともに生きて」	「ともに育つ」	「みんながつながる」
考え方	動植物など他の生命体とも響き合いながら、子どもが現在(いま)を“生き活き”と生きていくための乳幼児教育・保育の取組を推進します。	子どもの成長は一人ひとりによって異なることから、保護者が子どもの個性や発達状況を受け入れることが大切です。そのため、保護者自身も成長するとともに、子ども同士が育ち合うという視点も大事にしながら、乳幼児教育・保育に携わる職員も質の高い教育・保育を提供するための研鑽に努めます。	子どもの望みを尊重しながらも、必要な時にはいつでも支援できるよう、全ての就学前施設や小学校をはじめ、専門機関や関係機関など、子どもの成長に関わる機関との連携を図ります。
センターで取り組む具体的施策	「研究・研修」…非認知能力、環境構成をテーマとする研究・研修、公開保育など	「研究・研修」…保護者対応、発達をテーマとする研修、公開保育など 「発達・子育て支援」…移行支援シートの有効活用	「研究・研修」…保幼こ小連携をテーマとする研修、公開授業など 「保幼こ小連携」…(仮称)架け橋ブロックでの取組、保育要録・指導要録の有効活用 「発達・子育て支援」…専門職による園訪問支援

令和 6 年度第 3 回 発達・子育て支援専門部会

「(3) 次年度の研究・研修について」 主な意見

<研究>

- 担任の先生が他自治体のように年 8 ～ 1 0 回程度集まって研究に参加するのは園の体制を考慮すると現実的に難しい
- 保育施設の場合、1 9 時頃まで保育をしているので、時間的にも集まりにくい
- 研究には事前の準備に多くの時間を要するなど、相当な労力が必要
- 専門部会のように施設類型を越えて話し合うことで、お互いの保育を少しでも知り合うことができたので、研究が施設類型を越えた取組であれば意味がある
- 研修を兼ねた実践研究の方が取り組みやすい
- 公開保育を行い、その振り返りを実践研究とするなど最初はハードルの低いところからスタートする方がよい
- 公開保育の実践研究内容を学会などに提案して、その中身を成果物とする取組
- これまで宇治市の乳幼児教育・保育に関わっている大学の先生にも協力していただき、情報共有や事例の提供を通じて研究テーマを紹介していただく

<研修>

- 療育や障害には該当しないものの、どの施設にも身体の育ちが遅い子どもが多くいるので、身体の育ちをテーマとする研修
- 各年齢に応じた子どもの発達と障害の特性を兼ね合わせた内容の研修
- 年齢別の子どもの何気ないシーンを動画で撮影し、その動画を観て意見交換をするような研修（取組）